地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その76

文：鈴木　圭介

明神橋物語

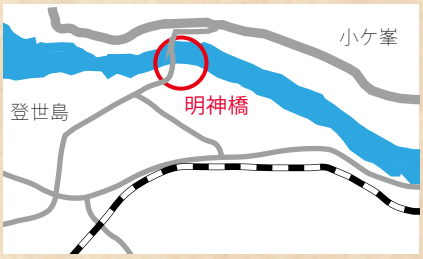
大正３年（1914）11 月、岩越鉄道（今の磐越西線）が全線開通しましたが、耶麻郡の物流は陸路では馬、対岸へは渡し船のため、大量の荷物運搬は困難でした。

いつの時代かは不明ですが、村人は橋を架けようと両岸の岩盤に穴を掘り、橋柱を立てて吊り橋を完成させたことがありました。ところが、完成したその夜の大雨で橋は流されてしまい「一夜橋」として今に伝えられ、その穴も残っています。

大正 11 年（1922）４月、架橋工事の決定が新聞で報じられ、場所は小ヶ峰―上小島間、総工費は 18,000 円、工期は１年でした。翌年の大正 12 年（1923）、完工式が上小島側で行われ「相撲小屋も建ち、大変な賑わいであった」と、明治 45 年（1912）生まれの私の叔母（当時 11 歳）が話していました。

完成した頃の明神橋（大正 12 年）

明神橋の建設は郡制廃止に伴う耶麻、河沼両郡の郡会予算を出しあう共同事業であったと推察できます。山郷村（今の喜多方市高郷町）、登世島村、新郷村３村の起債 5,000 円を野沢村が保証しています。おそらく起債は地元負担金ではないかと思われます。



私の曽祖父太吉（元耶麻郡会議員）が保存していた文書の中に明神橋から新郷への道路づくりの資料があります。明神橋完成の翌年、井谷・八重窪は、山郷村揚津地内（明神橋）から新郷に通ずる道路づくりを要望し、山都村外３ヶ村組合長田代萬之丞との間で請負契約書を作成し、山郷村道（新郷―野沢線）の改修工事をしています。検定工費 1,636 円（相当補助額 802 円 60 銭、寄付金 833 円 40 銭）と記録されています。長さ 150 間、幅 12 尺の道路を完成させましたが請負人の太吉が昭和元年（1926）３月、60 歳で急死し、その後の「新郷路づくり」は頓挫（とんざ）してしまいました。そのため、両地区は昭和 40 年頃まで 40 数年間、荷馬車も入れない数少ない辺鄙（へんぴ）な集落となってしまいました。

一方、新郷から柴崎方面への県道は整備されましたが、架橋はまだでした。ところが、大正 11 年、県営の渡し船が沈没して死者を出したことから、柴崎橋建設が早まり、明神橋に遅れること約 10 年、昭和 13 年（1938）に鉄骨トラス構造の永久橋が完成しました。

いまでも２つの橋の残骸が残っていますが、やがて橋を利用した人の思い出や物語が語られることもなくなるでしょう。

お詫びと訂正

７月号９ページの広報４４４号と５５５号の写真に関する説明文が入れ違っていました。お詫びして訂正します。

今月の表紙

今月は、西会津小学校の児童が参加したプログラミング教室より。参加児童は、ロボットやドローンなどを操作し、最新技術に夢中になっていました。（４ページに関連記事）

編集後記

今月号では、ふるさと応援寄附金の使い道を特集しました。町の返礼品を調べてみると、お米やミネラル野菜、そばなどが並ぶ中に、ひょっとこのお面がありました。野沢民芸品製作企業組合さんで作られているお面で、商売繁盛や家運繁栄の願いが込められているそうです。町の特産品についてもまだ知らないことばかりです。（伊藤）

にしあいづ
広報にしあいづ №778　令和５年８月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。